

ロールプレイ③

氏名 _____

事例**

- 楠木さん。現在 84 歳。男性。
- 妻(80 歳)と二人暮らし
- 小児の時に肺結核に罹患した影響で、低肺機能の状態。
- 軽度の心不全も合併している
- 50 代の頃、胆嚢摘出術の既往がある。
- 60 代から両膝の変形性膝関節症で整形外科に通院。
- 78 歳の時に脳梗塞を発症し、それを機に日常生活動作能力が低下したが、自分の身の回りこのことは自分で出来ていた。
- 今年 84 歳になった。変形性膝関節症の増悪で全人工膝関節置換術を受けたが、大半をベッド上で過ごす日常生活となり、通院もままならなくなり、訪問診療を受けるようになった。
- 膝の手術から 3 ヶ月後に誤嚥性肺炎を発症し、自宅で 1 週間の抗菌薬治療を受けた。
- 1 ヶ月前(膝の手術から 5 ヶ月後)にも発熱し、往診で誤嚥性肺炎と診断。酸素飽和度が 60% 台と著しい呼吸不全をきたしていたため、救急搬送。ER で気管内挿管、人工呼吸管理となり ICU に入院。心不全増悪も合併し、生死をさまよった。
- 2 週間の入院治療 (ICU+一般病棟での治療・リハビリ) 後になんとか退院。
- 退院後は、ベッド上で過ごし、ポータブルトイレでなんとか自立で行える程度の日常生活。
- 主治医は予後を 1 年以内と予想している。

【ロールプレイ場面】今日は退院から 2 週間後の外来フォロー受診のため病院に来院されました。本日、あなたは楠木さんと会う日です。医療・ケアに関わる専門職として、「今後のこと、もしものとき」について話そうと考えています。また、楠木さんも、もしものことについて話す心の準備が出来ている様子です。なお、妻は、今日は自分自身の病院受診のため、楠木さんのそばにはいません。

【ロールプレイ③の目標】

- 療養や生活での不安・疑問を尋ねる
- 療養や生活で大切にしたいことを尋ねる
- いのちに対する考え方を探索する
- 治療の選好を尋ね、最善の選択を支援する

【個人作業】（約 10 分）

あなたは医療・ケアに関わる専門職として、患者の楠木さんと、「今後のこと、もしものとき」について話そうと考えています。どんな言葉で話し始め、声掛けをするか、書き出してみましよう。
※各々の専門職の立場で結構です。※フィードバックに使用しますので読める字で書いてください。